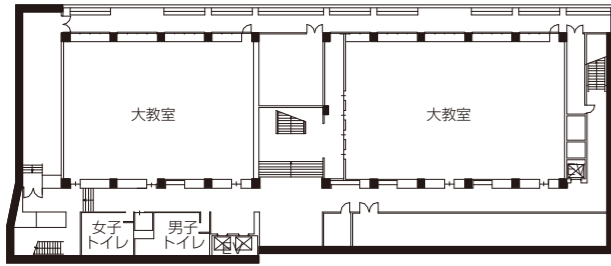


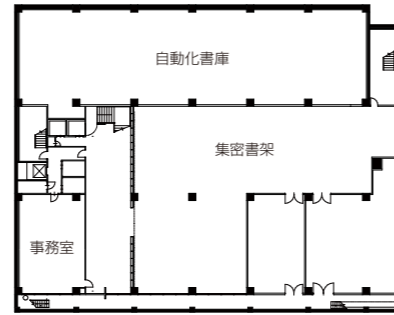
東京経済大学報

2010年
第43巻臨時号

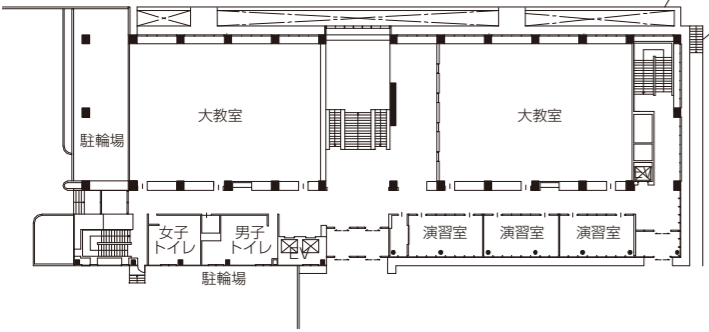
新5号館
B1F



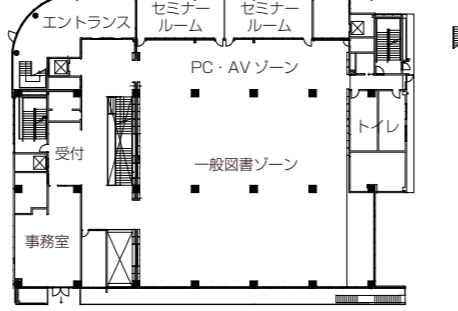
新図書館
B1F



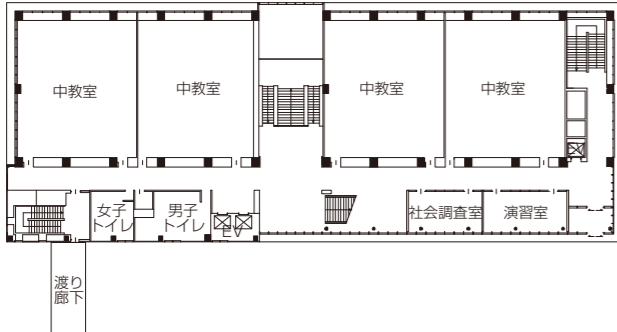
1F



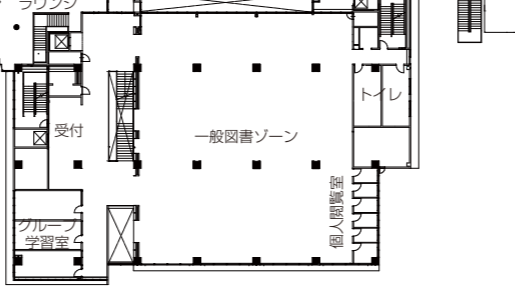
1F



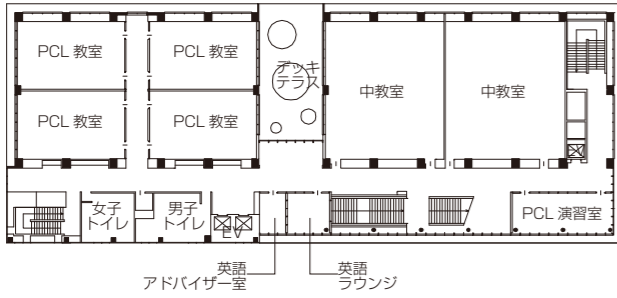
2F



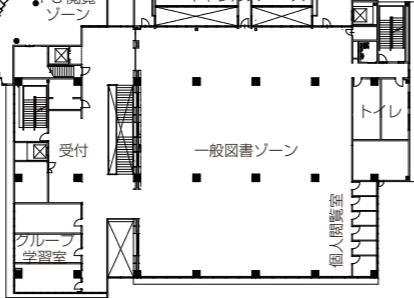
2F



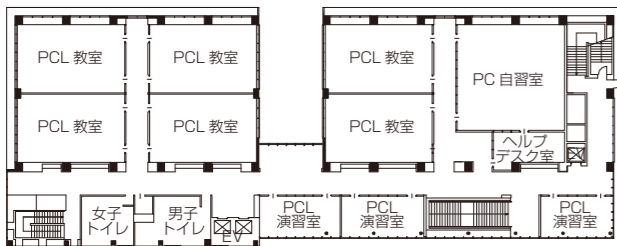
3F



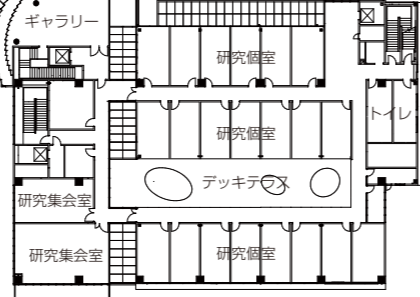
3F



4F



4F



国分寺キャンパス整備
いよいよスタート

国分寺キャンパス第1期建設整備計画の目的

国分寺キャンパス再開発（第1期建設整備計画）の目的は、大学の根幹を成す教育・研究活動の環境整備の必要性をはじめ、ICTの発達や地球温暖化への対応といった時代のさまざまな要請や緊急性の高いニーズに応えることにあり、以下の4つに大別することができます。

第一に「時代にあった図書館への建て替え」です。現在の図書館は、建設当時は日本有数の大学図書館として各地から見学者が訪れたすぐれた建物でしたが、建築後約40年が経過し、その利便性やキャパシティー、ICTやバリアフリーへの対応という点で、もはや限界に達しております。最新の機能や設備を整えた新図書館は、必ずや、学生のみなさんや研究者の期待に応えてくれるはずです。

第二に「慢性的な教室不足の解消」です。「夜間部」を廃止して、定員の多くを昼間部に移したことで、授業の出席率が高まっていることなどから、とりわけ、中規模教室の収容能力不足が常態化しています。教育の環境整備という面からこうした現状の改善は緊急課題となっています。

第三に「研究センター機能の拡充」です。本学では90年代後半から新学部・新学科が相次いで増設され、学習指導も「手厚く」という要請から専任教員の採用が進み、個人研究室などの研究センター機能が手薄となっております。

第四に「ICT環境整備」です。教室や図書館、研究室、事務室などあらゆる施設のICT化の一層の推進と相互接続を可能にします。



国分寺キャンパス第1期建設整備計画の概要

本学敷地は、国分寺崖線の自然環境を守るために先年制定された「国分寺市まちづくり条例」により、建設場所や建物の高さ等が厳しく規制されていますが、本計画は、環境や景観の保護に特段の配慮をすることを条件に、高さ20メートルという特例基準が認められています。その概要は以下の通りです。

1. 100周年記念館前の空き地に、350人規模の教室2室からなる仮設校舎を建設する（着工中）。
2. その後、5号館を解体し、その跡地に地下1階、地上4階建ての教室棟（仮称新5号館 8,541 m²）を建設する（2012年1月竣工、同年4月供用開始）。
3. 3号館の施設を新5号館と仮設校舎に移し、3号館を解体する。その跡地に地下1階、地上4階建ての新図書館を建設する（2013年12月竣工 7,910 m²）。地下1階から3階までを図書館とし、4階の大部分には個人研究室21室等を設ける。
4. 図書館機能を新図書館に移した後、現図書館の内部を改修してその他の需要を吸収し、その後仮設校舎を解体する（2014年9月）。

本計画は、通常通りに授業や定期試験、入試、葵祭その他の学生生活動などを実施しながら進め、総事業量は58億円を見込んでいます。整備終了後は、メインストリートや広場を備えたキャンパスに一新されます。（二つの建物の各階平面図を裏面に掲載しました。）

